

研究所だより

第 140 号 令和 8 年 5 月

発行：草津市立教育研究所

「こどもが輝く教育のまち・出会いと学びのまち・くさつ」

草津市立教育研究所 所長 野阪 智子

今年4月より草津市立教育研究所、所長に就任しました野阪智子です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

令和8年度も第4期草津市教育振興基本計画に基づき、教育活動の充実を進めてまいります。今年度の重点事業をご紹介します。

○不登校および不登校傾向にある児童生徒とその保護者への支援

まず1点目は、多様な教育的ニーズへの対応として、不登校支援についてです。やまびこ教室については、昨年度青地教室・上笠教室に加えて、令和8年2月に野路教室が開室し、こどもたちの新たな居場所としての活用が見込まれています。3教室それぞれに、指導員が配置されております。個別最適な学びの機会を確保し、教室の大きさや通所生の人数も様々ですので、ぜひ見学や体験にお越しください。

相談員による電話相談や学校訪問、加えて、昨年度から実施している土曜の電話相談と心理士による支援も引き続き行ってまいります。新年度が始まり、悩みを抱えたこどもたちや保護者の皆様から多くの相談が寄せられています。ご活用ください。

○学校では対応が難しいケース、問題行動への効果的な対応と未然防止を図る

続いて、学校問題サポートチーム会議についてです。SNS に関するトラブルや性的問題に関する相談、家族関係の複雑なケース等、これまで以上に学校対応が難しいケースが増えております。このことから、年40回の弁護士相談と精神福祉士のモニタリング等、児童生徒支援課や学校問題解決支援チームとも連携し、チームとしての学校体制を支援します。



○教職員の指導力や ICT 活用力向上を図る

スキルアップアドバイザー事業と研修講座についてです。ICT 活用支援については、学校政策推進課と連携し、先生方へのステージ研修を行います。学級づくりや授業づくり、授業の中での ICT 活用については、先生方等への支援をこれまでどおり、個別支援にて行います。また、夏休みが中心になりますが、先生方の授業力や資質向上、学校経営力の向上に資する研修を今年もたくさん計画するとともに、教育研究奨励事業への論文のご応募もお持ちしております。

○草津市の教育の在り方について、調査・研究を行う

調査研究事業として、研究員による AI の活用についての調査研究と草津市内の小学校社会科副読本「わたしたちの草津」の活用研究、6 月には草津市立図書館にて教科書展示会を行います。

不登校児童生徒や保護者への支援の充実、先生方への支援を研究所全体で、力を合わせて取り組んでまいります。今年度も皆様のご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

令和8年度 教育研究所事業紹介

○ 研究奨励事業

昨年度、小学校・中学校・こども園、保育所より 24 点の応募がありました。本年度も、ステップアップ研究部門、フレッシュ研究部門、就学前教育研究部門の計 3 部門本事業を実施し、教育研究のより一層の広がりをめざします。すべての所、園、学校からのご応募をお待ちしています。要項をよく読んで応募してください。

○ 研修講座

夏期研修は、7 月 22 日～8 月 5 日の期間に実施する予定です。今年度、資料に関しては、タブレット又は校務用パソコンで配布いたします。また、7 月 30 日(午後)には、教育研究所にて、研究発表大会を開催いたします。研究奨励論文中間研修会を兼ねておりますので、奮ってご参加ください。

※実技を中心とした自己啓発講座の詳細は、現在、検討および調整中です。

○ 調査研究

【教育課程に関する調査・実践研究】

今年度は、「生成 AI は教育現場をどう変えるのかー教職員の働き方改革と児童生徒の質の高い学びの両立にめざしてー(仮)」を研究主題として実施いたします。学校現場の皆さまのニーズに応じて、現場で活用できるものにしてまいりますので、これからもアンケート等のご協力をお願いいたします。

【地域教材に関する調査・研究】

小学校第 3、4 学年を対象とした社会科副読本「わたしたちの草津」の編集委員会を立ちあげました。今年度は、令和 8 年度から使用している副読本に合わせたワークシートおよび評価テストの一部改訂を実施する予定です。

○ サポートチーム会議

「保護者等からの要求や要望について、学校では対応しきれないケースについて相談するため」また、「児童・生徒への問題行動への効果的な対応と未然防止を図るため」の指導・助言を行います。

毎週 1 回程度、定例のサポートチーム会議(弁護士相談)を実施します。ケース内容に応じて、校内ケース会議等にアドバイザー(社会福祉士)が赴くこともできます。

○ プログラミングコンテスト

興味・関心のあるこどもたちがその学びを進めていった成果を発表する場として開催します。たくさんのご応募をお待ちしております。
表彰式：12 月 23 日(水)

○ 教科書展示会のお知らせ

期間：6 月 4 日(木)～6 月 26 日(金)
水～月 10:00～18:00(火は休室)
ただし、最終日は 12:00 までの実施とする
場所：草津市立図書館 本館 2 階
参考資料室(レファレンス室)



所 長：野阪 智子

主な担当業務

- ・全所内事業
- ・事務の総轄
- ・渉外および連携



指導主事：三品 友博

主な担当業務

- ・研修講座
- ・研究奨励事業研究発表大会
- ・教科書展示会開催事業



研究員：佐竹 二三也

主な担当業務

- ・教育課程に関する調査・実践研究
- ・地域教材作成
- ・教育情報の収集・提供



わたしたちもよろしく願っています

スキルアップ支援事業

本年度もどうぞよろしくお願いいたします。

担当校を訪問して対象の先生方の授業を参観させていただき、「授業づくり・学級づくり」及び「ICT 活用」について個別支援・指導を行います。

また、全校・学年別・教科別などによる OJT 研修を通し、学校全体の授業指導の力の向上を目指します。

授業づくり・学級づくり支援

授業づくり・学級づくりの“キホンのキ”から“より確かで、より豊かな実践力の獲得”
対象の先生ご自身のめあてとその場の実践のリアルを大切に…、
寄り添う支援をしていきたいと考えています。



担当校【山 崎 賢】

志津小・草津小・矢倉小・老上西小・玉川小・山田小・常盤小
草津中・老上中・玉川中

【清 水 康 行】

志津南小・草津第二小・渋川小・老上小・南笠東小・笠縫小・笠縫東小
高穂中・新堂中・松原中

I C T 活 用 支 援

授業でICTを活用できる基本的なスキルを身に付けていただくための支援を行います。

こんな場面で困っていませんか？

- ・教材を効果的にこどもたちに提示する方法が知りたい。
- ・こどもたちに ICT を活用する力をつけさせたい。

担当校【仲 野 忠 克】

志津小・草津小・矢倉小・老上西小・玉川小・山田小・常盤小
草津中・老上中・玉川中

【糠 塚 一 彦】

志津南小・草津第二小・渋川小・老上小・南笠東小・笠縫小・笠縫東小
高穂中・新堂中・松原中



研修のお知らせ

6月中旬に実施します ICT 活用をアンケートを受けて、8月4日（火）
に教育研究所にて『ICTステージ別研修』を行います。
オンデマンド研修も行っています。

7月上旬に別途案内しますので、管理職を通じて受講者の報告をお願いします。



やまびこだより

草津市では不登校支援が課題となっています。教育支援センター（やまびこ教育相談室）では「不登校等、児童生徒への支援の充実」をスローガンにして、**心理士の配置や相談事業の充実を図ります**。やまびこ教育相談室は、「青地教室」「上笠教室」「野路教室」の3教室を開室し、**SSW（スクールソーシャルワーカー）**、市内各学校・園との連携のもと、児童生徒、保護者への支援の充実、強化をめざします。

教育相談室



やまびこ教育相談

さまざまな悩みを抱えている子どもや保護者が、安心できる場所で自身の思いを語ることによって、少しずつ現状を客観視できるようになっていきます。相談者自身が本来持っている力を発揮し、解決に向けての方向性を見出していけるよう一緒に考え、支援します。

（写真は青地教室）

子どもが自分の思いが語れない場合、活動や遊びなどを通して相談員との心の交流を図ります。子どもの気持ち
が自由に表出されるよう支援することで、少しずつ心が癒され、情緒が安定するようになっていきます。

（平日の相談だけではなく、土曜日にも電話相談を受け付けています）

やまびこ教室

『やまびこ教室』は、学校に行きにくい状態にある子どもの学校復帰や社会的自立を目指して、さまざまな活動に取り組みます。**「青地教室」「上笠教室」「野路教室」の3教室の開設で支援の充実、強化を図っていきます。**

やまびこ上笠教室



やまびこ青地教室



やまびこ野路教室



SSW の役割 「環境に働きかけるとは？」

今年度より草津市立教育研究所と児童生徒支援課のSSWに就任しました津村祥枝です。こどもたちが自分らしく成長できる環境づくりのために、先生方・関係機関の皆さま方と連携を密にし、一人ひとりのウェルビーイングを支えていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

○「環境に働きかける」を考える

SSWの役割として、「こどもの置かれた環境に働きかける」と説明されていますが、「具体的には何をやるの?」と疑問を持たれている方も多いのではないかと思います。そこで「環境に働きかける」支援の代表的なものとして「保護者とのケース会議」をご紹介します。

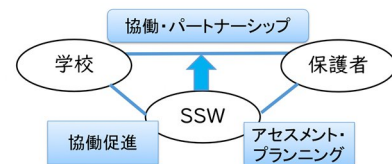
「保護者とのケース会議」とは、SSWを含めた三者以上のメンバーで実施する戦略的な会議のことを指し、面談とは区別されるものです。

こどもは生活の大半を「学校」と「家庭」で過ごし、日常的にその2つを行き来しています。2つの環境が密接に結びついていることから課題改善のためには学校と家庭が協働して支援方法を考える必要があるのは明白です。

そこで我々SSWは、学校と家庭が協働し、共にこどもの課題の**アセスメント・プランニング**をする支援の土台を作ります。(1)図の通り、学校・保護者による「こども理解の共通化」と「プランの具体化」をねらいとし、学校と家庭のパートナーシップが強く結ばれるよう働きかけます。

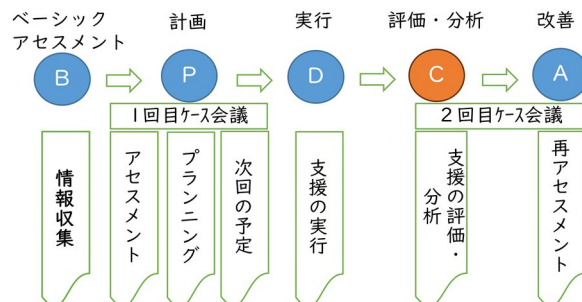
(1)保護者とのケース会議

○ねらい
学校・保護者による
「子ども理解の共通化」と「プランの具体化」



ここで支援の鍵になるのが、(2)図の「C—評価・分析」の部分です。全てのケース会議で言えることですが一回で終わらず、必ず次回に全員で「実行してどうだったか」を**評価する時間を持つ**ことが重要になります(こどもの行動に**変容**があったかをチェック)。そして「A (Action)」で再アセスメント(良かったことは続ける、効果がなかったプランについては手段を変える等)し、改善に努めます。

(2)B-PDCAサイクルによる支援



このように、学校・家庭と一緒に支援方法を考えることで支援の方向性にズレがなく、こどもへの対応に統一性が生まれ、改善につながりやすくなります。また、既にずれてしまっている両者の関係修正のために会議を開き、先生と保護者さんが関係を結び直して下さったことも数々あります。そして、この三者会議に関係機関にも入っていただき、多角的視点で支援を進めていくケースも多いです。

学校だけが、家庭だけが課題を抱え疲弊することのないよう、みんなで考える「保護者とのケース会議」を「環境に働きかける」支援の一つとして、ぜひご活用ください。(SSW 津村祥枝)

シリーズ

司書さんおすすめの絵本



「コアラとお花」 メアリー・マーフィー／作 ひだ みよこ／訳 (ポプラ社)

ある日、散歩に出かけたコアラの女の子は丘の上で綺麗な花を見つけました。綺麗なものを見るのが生まれて初めてだったので、お花を摘んで家に帰りました。花瓶にさして眺めていたのですが、なぜか花はしおれてしまいました。

どうしても花のつくり方が知りたかったコアラの女の子は道であったロバに「お花のつくりかた、おしえて」と尋ねました。するとロバはある所に連れていってくれました。

それは図書館でした。自分で調べる楽しさをコアラの女の子と体験できる絵本です。



「もくもくやかん」 かがくい ひろし／作 (講談社)

なににちもなににちも雨が降らず、大地が干上がっていたある日のこと。やかんが、全速力で走ってきました。そして、ポット、あかやかん、じょうろ、きゅうすも集まりました。5人は、干上がった大地に雨を降らせるため、「おいち、に、さん、し、やかんです」と、体をほぐす体操を始めた。

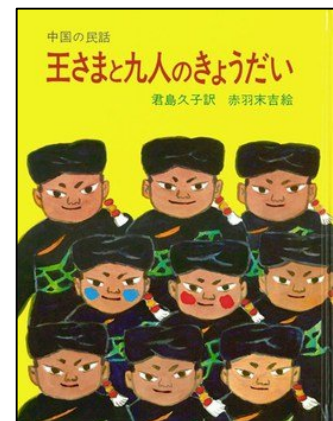
雨を降らそうとする姿がユーモラスで子ども達も一緒に応援したくなるでしょう。梅雨の季節にぴったりのお話です。



「王さまと九人のきょうだい」 赤羽 末吉／絵 (岩波書店)

なかなか子どもを授からない老夫婦が池のほとりで寂しいと嘆き悲しんでいると、池から老人が現れて、子どもを授けてくれる九つの丸薬をくれました。一粒飲んでも子どもを授からなかったので、おばあさんはすべて飲んでしまいました。すると九人の顔も体つきもそっくりの赤ん坊が生まれました。大きくなった9人は、ある日、王さまから無理難題を突き付けられました。

絵本から読み物へと移行する時期に興味を持ってもらえる読み応えのある中国の民話です。



読み聞かせなどに、ご活用ください

このシリーズは、市立図書館の司書さんのご協力のもと作成しています。

